禁草分下

第一　不可忘自己事

第二　有徳人途可知邪正事

第三　可離実多財事

第四　邪二亡者多欺失事

第五　恨人施恩事

第六　一切可離欲心事

第七　檀那対法事

史一不可思自己の
一心猫捉鼠頭尾一般みして雙目不解自己と呼ぶく
ちるべし心地みうる時は煩悩乃賊をそひおこりて自己
乃主人となりぬるもの不可思議なり
しかれども六根門とうるもそのうちにぐんろうれぞくと防
ぐ仏性を隠す乃所業はいかに自己と称するものみあり千二時
中みをして刹那も間断なく六賊煩悩みな
うくしてに全く叶べからず本来自己乃主人
なれて威光とうなるなるべし貪嗔癡乃三毒の念とをこり
て一切の煩悩自己とうるを真実つくい効命
も捨て安しうれひひらきてわくだうみ入るべきふくと
ちうずるとうるを犯罪に入るべしよって自己と
まもれうる乃誤自己とうるもて是うる自己みつをそ

なれ添とうるべし仏界魔界乃是相ぜんあく業法をえて間
已みわるとしかるに法うる自己とをもるを時は素心迷元
も自己と教ひをうる時はば心性をうるひ心とをもぐうるひ
敵をうるとんみひゆるすべうるべし古人云煩悩みうる故
みあるを思ふんうるに煩悩何ぞうるとさるいんを生をうを
元来心滅をうる我を達磨云迷時人逐境と
ふるとは法を人ざとうる時は識指文はうるに時は識指仏
ふるんを男什被自ん現量先生を諸号と我よをまひ
の教学とを義をもうるを顛倒乃みを信して心ん我く
らまり学をうるとを信とうる若をとあて来とうる
我乃我と実と実不浄と仏く清浄となん自己不浄
とをうるんをうるべし心臭肉より何乃うる
しをうるや苦悩をうる也生死病死悪増會苦求

は苦を別離苦又盛衰苦なり八苦たり
十悪五逆殺生偸盗邪婬妄語両舌悪口綺語貪欲瞋恚愚癡
等なり悪口とは人をつくるなり
ハ四十悪にてこれ乃ち悪心なり
分ん苦痛云ふべからず
くるに苦患かぎりなしなり
今日世世に来て分んとなるべし
なり出ることなく苦悩しぬ理不尽
してくるひよ浮沈をなるべきもれて生死
なるべき悪心なり自己とも
三ることを欲ぶべき心あるべし
へともぜんぜんを抱みなるべす
出て往人は実なるべき

つることをとなるべし。邪婬とは
乃ちざりなる婬をもちゐず。婬乃ち
れぬとなるべし。四乃悪とは
らずぶべに光陰をもとなる
とを知なるべひ乃心なるとを
家理なるべとを知悪人のわるとを知
して余不乃そなるべき知ざれば
他とをさ邪婬乃心なるべして
紐い見と情をひてぶべ
なるして見と不知人のなるべ
としてこの理人ぶべ自己乃心
慢せん人は云一乃中に四乃邪極わる事とをんべて
分中乃ことにさるべ古仏乃偈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

げんをうりぞれいとの色み眼とをんべ己とちてな源とさ
とるべし。剎那も懈怠心なくして、人云ぐ〜ゆうもべ
くく。鐵漢著てゑ心頭便利也。毫釐も一切を相
とんどなるなれども自己と思ふ人肝要也

第二 ゑ源り多人途に下ち邪正ゑ

一更修り乃色有ゑ途光を智めて い佛ことをりぐと
しして廣学ゑ門とこのして法藏智ゑ眼とさう
す人ゑ或い樹下山林とこの孤峯絶谷とも〜して
明月清風ゑ心とともに流れとともとゑ人ゑ
或い持ふ戒とちてだひ正ゑ欲法像柔和愚鈍とも
称うして佛行ゑ〜〜とおとゑ人ゑ或い他
力ゑ教とひとうして念仏と用人ありおひい報恩謝徳と
用人ゑおひい報恩謝徳と用てだぐの章にいる

て一向ゑ禅定とあうくふゑ人ありおひい祖師乃法
ゑうゑ向と乃ゑ自と用て生死ゑ男女ゑいうもで見性
成佛とうぐくゑ人ありおひい多途ありとゑ人と
佛祖乃年とゑ和ゑ〜〜て法ゑ法ゑ法ゑ
いるべゑ教力とゑ人婦也濁乃ゑ人と云い
初学ゑ人ゑ男女離とうくちて新相新名ゑ自し
有相執若乃会根と鐵ゑして塵ゑ同体とゑ修行
ゑとすゑひゑ和ゑ修行とありすゑ常ゑ座
安ゑるべ。古人云教ゑ人ゑ〜〜かゑ〜〜ゑ方ゑ
どこすとゑりゑゑるゑ人力量と奥ゑ古人ゑ新ゑ新
解とゑ他ゑ邪解と用人ありてゑ信男ゑ
ゑゑゑゑとゑ人とゑゑゑゑ数ゑ濁ゑ
見解ゑゑゑゑ相乃会ゑ〜〜ゑ自

乃修ひおさめんとて我れとなけ
るとさとりと実事大悪知識
乃ちるべ古人休去歇去みな絶て
牧牛の図をもて十法乃修行と立てり何ぞ
他の修行をもちるなしとあて法縁と見るべ
とれ人わるべ事みるべしと生死と截断をもるの
るべをかわるず三界れどそん釋迦年尼の未那ひ若
行十二年乃切とおて臘八日の明星悟をもて三祖
道璨ハ法とをら来られて雪中に立て左れひちと
きりるを又五祖禽中七百人の見解とあるひのみにて
盧行者一人のみのひとをもて法をもとり伝をもさるを
わるん人祖の後をしてだ教ともるをるをいたるやう
時乃ぐしや常ふくを曲いなるゆへといとんや七百人仲と

法乃人みおとるるしや南岳の祖ハ参ひ行歴和り
免度ふ来れといとそれくひとはらて八年と経て不
時十六年と経て既可ひるを色愚迷なりといとんや
とを中参禅道見色妙ハ云下乃大悟人をもりくを
人の修ひとを乃人ふ比べ古人法乃をもひ道と云
くをんとおて来べるべ祖云ふて
いるべるべ寂黙とをもるべ門云将二百六
十骨節八万四千毫竅通分之三箇類因参箇玄字
方是拈撰美作屋禽美作有無禽之箇類
鐵丸相似吐又吐不出蕩盡従前惡智惡行人々也孰自
抵関外打成一片心魂子得等閑許自知蕃抵打教
天動地奪的関将軍大刀入手逢佛殺佛逢祖殺祖

彼岸頭得大自在向上道四生中遊戯三昧且作麼生[illegible]
平生気力挙箇学若不甫為好似法燭一點便著古人教[illegible]
今時何生乃人出彼岸頭[illegible]大自在六道四生遊戯
三昧[illegible]乃埋[illegible]余不[illegible]愚癡乃[illegible]
[illegible]今時[illegible]人[illegible]人我乃[illegible]
[illegible]我[illegible]古人[illegible]
乃[illegible]
禅蔵[illegible]観守[illegible]縄自縛○[illegible]得外道[illegible]
軍存[illegible]澄寂黙照邪禅○恣意志縁[illegible]沉坑○惺惺
不昧常鎖擔伽○思善思悪地獄天堂○仏見法見二鐵
圍山○念起即覚是精魂漢○元拙智定鬼窟活計○
[illegible]則迷[illegible]退則邪宗不[illegible]退有気死人且道何[illegible]

跳努力須了却一今生莫教永劫受餓鉄[illegible]乃埋[illegible]
[illegible]て浅智乃人我人[illegible]邪見[illegible]
とそ[illegible]事天[illegible]
て活脱自生[illegible]
[illegible]或長光江湖と著[illegible]
[illegible]鼻[illegible]
[illegible]七日七夜[illegible]
[illegible]
[illegible]

邪師法とゆうてれいそをもつて氣遠てゆみ煮られ或は
へ行て自害しつり或いさりそりとして生る縁伝聞
と云捨て相ひ或さりたつとして向ちみかさくんとゆく
めおうひいさりうるとそてそうこそ或
けうるとうとうこ居るどーて其風と用さ面くんと遠
をもどひ多りし又女人邪法とゆうてんみせあつ也女年
相撲ゆ死せり或女人新法とゆうく赤裸よかて門おせて
たつ中せうる或女人金襴乃掛絡ゆげこれうるを
てちまりつ多うはい相死うる或士邪法とゆうて腰
切うる二人あるとし或士さうつ
むい先とうて先てくくたるとして向ちかかとうて
てあ後生と一方切くうしけり相てうちなる氣さ或
さうひ邪法とゆうて中ゆ其裏とて絡みたうう

氣遠て相とゆうくしてなる氣
なん表ゆうるとうる皆先今乃人ゆうれいうん絡ゆうう
ど絡一大ゆを俗せん人ゆ邪正と知べし法のうあわ
さ人ゆうとどゆ氣ゆうちうこ人ゆ二つゆ世
ゆうと先相ゆう人ゆ三ゆいさうゆ紙屋ゆくさづゆ人ゆ四ゆ
活脱と用く勤行迷ゆうう人ゆ六人ゆ慢れゆうう人ゆ六ゆ
ハゆ人乃法ゆうさ人ゆ七ゆ人ゆ歌ゆうさ人ゆ人ゆ人ゆとゆ生て
しさ変ゆと絡ゆうべしゆうゆ生死の大ゆと流幻七
世ゆうと浜ゆう人ゆ新ゆ麻乃中乃菩提ゆべ一

第三十 離実ゆ見ゆ

一切有為法如夢幻泡影如露亦如電應作如是觀
ひ為ゆ幻化五常ゆ四大ゆ空ゆ何ゆくゆうゆ来何ゆくよさ
ゆ毒ゆ毒ゆ中乃なゆ人ゆ民者

不金邪賊寶財くとうとされども夢醒き一切しう
世界は無量のものとわるとんれくてくちあるわ
い皆滅を家賊財寶実体なし栄耀名利をえべてこ
ゆくなり古佛の偈云迷世界幻造諸悪業亦
是幻身如裏法心荒幻出受報之実性拙く着相の業
自己のきよぐんなる性不幸の相のふつとふくして
号の中は夢とする結の会体付すれば有てる生
死と出離せんや速くさとるべきなり夢れさしてとうさ
ゆとなり義中は心は三界あるとこ界は安穏の大宅
と統治ふなりきやうてに大宅と出べ大業体出るとう
へ多しとゆえに莫高想の一切とうべ佛とつて家
相法とつて高想若しつて高相無とうて高相無されば
い一切妄想なりと見るべ文意也唯一心は離てい

と迷ひ色い心深秘の夢きあて妄ぐうとうとべ
幻化の理は眼とうきて一切相中高妙文意
と心をうべ

第四 帝釈三元者宿の矢事

一元者帝釈陀羅尼と編し佛行と称して元者の
切徳とす佛法の中のこの陀羅尼佛行の切徳先自己のうち
ひ求つて実の心發して則自己清浄とうれ清浄
いかうの対ひ平心念となる心虚空よりまつくして
の処なるべ徳いこれと帝釈身心自己清浄めて
念の心益あり帝てこれ帝釈ふわるべ徳ふこ
えと帝対い陀羅尼とべ佛行とす若労し
て施されば切徳らして我の心益めわるずとすひて布施
の相宝と計て自心と縁とす大悲義せり大切の心

法とおもひて、剃髪そとの間とうちまつりとうち
で、幼わらわより佛門にいりあ仕りを
ゑ佛道組織とおもうて惡業の他人をとらべう
ざ、うちまづひちんと法を食物わうこと
めいぜ慈悲わりごしとかるすずんをとおもべ
びくうまつて善人とおこさしもうる切德よわうぎんや必
慈悲の便とおもて、うれづん地獄に捨よ流さ教化せ
自然よとしてみまてこべ、惜食ゑんと法をくうれ不しうで
雑人の中いうて惡業とふとうるべ、一切の人よわうこんと
きづうるうちうぎふのわうぎんや法ゑ佛弟子とおて
佛をそ法なべとかづ、ゆ慈悲の人わうべうこ、一切衆生と
ひんそわうまじんうい佛弟子よみわうぎ、流生海度の教
力はうこうして、慈悲とおもうべ、維持家の男女うりと

云うて、慈悲の人傷みわうぎ

第八一ものを丁離欲ゑうす

二ものの動をうゑ我が家とおりつべうしたる食の人佛をと
薩の家なり家賊報恩墓をみいうるまでぐうゑ我の知よ
わうぎ、ゆうの欲ゑの人のうあなうべうず出離解脱の教を
うりゆ理法をおもうて佛の教言となすうゑ法と
をうひ自己と他をべきゑんうるうしてゆび布施とおりて
とひぎんひぎのうてうりあうて他のせだう
鐵鬼の者とまわうべうぎ、ゆうれば他と常ハうす自
とのうゑんなうゑとあうして親族の滿うる布
施のうちとおもうべうず佛をそ法をうる御弟子何を利
歌を施をせんや三界出離の修行ちなり心理よそむ
ひく邪法を八宗うゑ一をもうみ出家の二字と申り

く生雑の作業となすべし

第八 悪人絶和事

一悪人和と絶をなす業とは絶て大乗の施物佛和と悪業と
悪人和ごとき業と言て苦とあるなり
とて人あり光大乗の僧に出家い一切衆生と成と
あ絶ばくなることは悪いの業人とい何なる者後とん
てもく物べきあ為為地水火風のなり和也況よ三界
と出ることなし出家しなり絶ばくなり何と我和とならべと
観察をべし乃絶和ならんみい則なんそなる乃和とならして
あるべしとべし食べんみうるべしまそいたん一生
乃中執をしてはくなるとなる悪業物儀乃かくなる也
らくもんとうあて行未なるべくふるべしひとそれて一
紙半銭おろそかせをして仏和を使庁僧とくなる

ゆ合遠ざけためるべし悪人等みわるごとをべし食べるべし和とか
をべしいとゞ不清潔無乃分とを侵犯れ和ととりへて衣
服食和とあるべしん和べ癒るひまにとを少れるべるべ
どうして剣樹刀とみ何なるべきやもるべきいたの和益
くもなるをして和て地獄乃業とるべし侵義三輪清浄
とあるべる殺生清浄為和清浄乃和
まるべし実国よを中朝中殺生の義みつひて為ぐ
乃逆実多しものあるべる施和完成せり侵物名僧成
とてごとそんなるかごるるべるとべるとべる死物苦患
つるべして史乃解ひとるべてあるべて大物はせり大
掬水と入出るべくをやしなる成長老史乃病とるべて苦
痛て死でハ息とるべるべしたびひ
世ふまるべ成長と教事ふるけばあるべる大乃僧室とべる

四人をとれらて子細とそびわるに獣魔ものと二人のに
うひまうさせあうとく云七箇日もたつるに角ん出死てと
ゆくひみゆくるとみてあつと一こゑ云そのうくすくそて白性
三日ないとす題分わくかたし熟して死云せるに武長を死物
若痛にくくして若三寸ばかりをいでるに二人ゐ武も死
いそうとくくせるに老僧ばかりがひて死ぬちくしやうれど
くなるに武長をびくくはくくしてうてゐるおとう
こうずるの不叶数日経ちるにびりれちみをぶのひびりれ
腕よりぐくしの出まんとまてこにるをみたりまたよりくしの
出まんとせるとトみをしがせるうみくくしの出まて題分
くくう悪してうとゆくべくあるくし死ぬるみい獣魔まて
せあるに三月と経て死せるびあびせみるくし武長を
是那とあくそひ死んとうくひ死ぬうりぬあるの

いしやもんにさそはれて成佛をねがはんとこひ
めぐいの出家れとぶなりとふるくやみとくべき是ちまたびとれは
ちまたじやうさいのおくわるやうつりかんてぐんさをべし
とそれはあんとうの伝ちんとおとこしゆう寺住なり伝
ふとわこうしゆう方便ほうゆうたづしくとうえ
や萬靈とくくとうひとぐんぜんと清澤あてぜうう
ろ新うう塔廟とうくうぢうしゆうとうひて人乃
ちうとうさうしゆべーぢうぢうん清澤ようちひわうひえ
屋うしやえいかつうぢはれうあうひいしじやうあれはり
とえおうひいすわくもんぢやうはれとうあうひいちうく
ふじやうとうぢんじあうひてんぢうめのまうせうはとと
きあうひいとしはとんをかしーあうひいとわくゆしはうくぐん
とうとうそのぢう接ぢまうぐふてぐんこそぐとわうへいけと

らちやくうとうれ初んとううんでいかうとにはとうとこと
ひうとうやうつとれいふべうしびしさふりうちうとかと
てぐんとうとちりうしおうはれうえ主家へりの代金うとあう
うひうちうとうそでうの潰家とうとのへでうとにうとかぐ
つてぐうりうあうとさぐ沖ぐんうとうちぐぐふへあうしよう
うとうくうんわふのりうひうとうとうぐんやおうとうぐしく
一うやうとうぐ一うのゆめうと

禁裏草紙本板

寛文初年菊月吉日

松會開板